

第Ⅲ章 活動事例紹介

1 推進員活動のすすめ — 地域住民への働き掛け方はいろいろ

推進員として町内会などの地域で活動する際に、どのような活動から始めたらよいかわからない、悩んでいる方に向けて、地域活動の支援を行っている遠藤智恵先生より活動のコツを伺いました。悩んでいる方はぜひ、活動の参考にしてください。

「推進員」を地域の方々に認知してもらおう

皆さんは、推進員の委嘱を受けてこれから活動していくことになるわけですが、地域での活動は、地域の方々から「認知」されるとやりやすくなります。では、推進員について知ってもらうためには、地域の方々にどのように説明したらいいのでしょうか？

「クリーン仙台推進員・クリーンメイト 活動の手引き」（本誌）に目的や位置付けが書いてありますが、そのまま言葉ではなかなか伝わりにくいときは、言い換えて伝えてみてはいかがでしょうか。



<遠藤智恵氏 プロフィール>
協働まちづくりや人材育成・市民活動・被災地の支援をおこなっている。市民ひとりひとりの普段着でのソーシャルデザインを応援中。地域社会デザイン・ラボ代表

<推進員の役割>

- ①ごみの減量などを通じた環境まちづくり活動、問題解決行動を応援する役割
- ②環境まちづくり活動を進める上で、市民と行政の連携を図るコーディネーター・リーダー

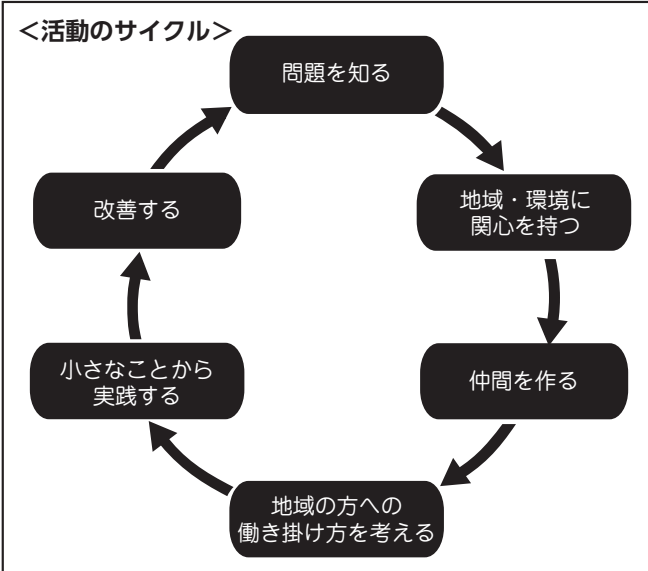
そして、法律に基づいて仙台市が設置した制度であること、さらに、推進員であるあなたの「ごみ減量やまち美化などへの思い」も合わせてお伝えすれば、地域の方々の理解はさらに進むでしょう。

お互いの顔と個性が分かり、気持ち良く話し合える関係、人と人との絆ができれば、これを土台にして、地域でのごみ減量・まち美化、さらには防災・防犯などの活動に、地域の方々と力を合わせて取り組むことができると思います。

推進員活動の始め方

「推進員になったけど、何をすればいいかわからない」といった声をよく聞きます。そんなときは、ぜひ、仙台市が実施する「研修会」に参加してみましょう。

研修会では、推進員同士の交流・情報交換を通じて、他の皆さんがどんな取り組みをしているか知り、参考にすることができます。そこから、「問題を知る」「地域・環境に関心を持つ」「仲間を作る」「地域の方への働き掛け方を考える」「小さなことから実践する」「改善する」の活動のサイクルを作り、自分なりの活動に発展させていきましょう。



では、推進員の活動には具体的にどんなものがあるでしょうか。

これまで実践されてきた活動を分類すると、以下のようにさまざまなものがあります。地域で問題になっていることや自分の関心、経験などと照らし合わせてみてください。何か気になるテーマはありませんか。

<推進員の活動例>

- | | | |
|--------------------|--------------------------|-------------|
| ●カラス、犬、猫などの対策 | ●缶・びん・ペットボトルの出し方ルール周知と点検 | |
| ●ごみの分別周知 | ●集積所の改修 | ●ポイ捨て対策 |
| ●紙類の出し方ルール周知と点検 | ●回覧物・掲示物の作成 | ●集積所の美化 |
| ●単身・学生アパート住人への働き掛け | ●外国人住民への働き掛け | ●子どもへの環境教育 |
| ●事業（営業）ごみ対策 | ●不法投棄対策 | ●ごみ減量への取り組み |
| ●勉強会・見学会の企画・開催 | ●町内の清掃 | |

推進員活動の5つのポイント

活動を実践していく時に、押さえておきたいポイントが5つあります。

<5つの活動ポイント>

- ①推進員活動は「地域住民による問題解決行動・まちづくり」であり、住民自治活動の一環です。
- ②「自分ができる」から「みんなができるための援助をする」のが推進員の活動です。
- ③「一人」でやっていたことから、『グループ・チーム』での活動へ、発展させていきましょう。同じ関心を持つ人が2人、3人集まれば、それはもうグループです。町内会の中でグループ化してもいいですし、他の地域の推進員とテーマごとにグループやチームを作って、勉強会を実施するのもお勧めです。
- ④住民同士がつながり、「気付き」を共有する運動にしましょう。人は、自分自身で気付けば行動します。
- ⑤住民と行政との「協働」の視点を持ち、お互いに知恵や意見を出し合って活動を進めましょう。

地域活動の発展段階

さて、皆さんがまちづくりや問題解決に向けて地域で活動していく中で覚えておいていただきたいのが、活動には発展段階があるということです。

第1段階は「住民同士の思いや情報を共有する」段階です。「うちの地域ではこれができていないよね」「もうちょっとここがきれいになればね」。こんな話が互いにできる関係づくりが大切です。

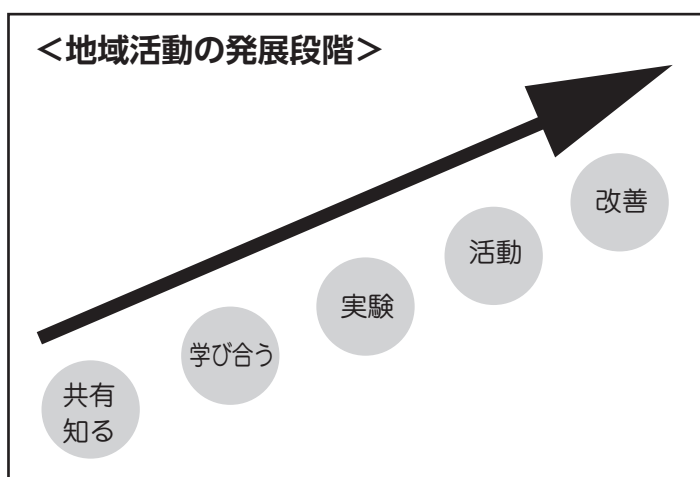
第2段階は「共に学び合う」段階です。その問題を解決するにはどういう方法があるのかについて、推進員同士、住民同士で勉強します。

ある程度勉強したら、第3段階、「実験してみる」段階です。「お試してチラシを書いてみる」「お試して掲示板に貼ってみる」など、お試して少しずつやってみるのです。

そして、第4段階が「活動する」段階。実験結果を踏まえて、実際に活動します。

最後に、第5段階、「改善・成長する」段階。活動も一回やったらそのままではなく、毎回、振り返り見直して改善を図り、より成果が上がる活動に進化させましょう。

<地域活動の発展段階>



「観察」から「話し合い」、「問題解決」へ。「話し合いの文化」を根付かせよう！

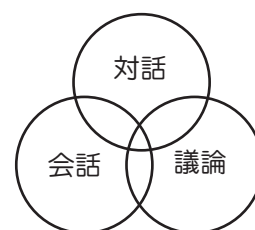
推進員活動を実施する際に、まず重要になるのが「観察」です。推進員の皆さんが、どんな援助を行い、どんな言葉を掛けるかは、観察で何に気付くかで変わってくるからです。

例えば、地域の方々のごみ出しの状況や行動のクセ、カラスの特性などを観察します。そして、観察で気付いたことを推進員同士・住民同士で話し合い、共有し、いろんな取り組みやアイデアを出してみるのです。そうすれば、「3人寄れば文殊の知恵」ということわざにもあるように、活動アイデアや援助の工夫が出てくることでしょう。

あなたの住む地域に「話し合いの文化」を根付かせてください。「会話」「対話」「議論」がある地域は、問題解決力も高い地域といえます。何か問題が生じた場合は、住民が集って、みんなで語り合い、アイデアを出し合い、多様な視点で物事を考えることで、見えにくいものが見えてきます。

<話し合いの文化を育てよう>

- 会話＝筋道よりも自由さ。思いつくまま話す
- 対話＝自分を主語にして話す。判断を保留し、異なる意見を受け止め、背景を探る
- 議論＝意見を交わし、より良い答えを見つける。事実や論理を大切にする



◆アイデアを多く出してほしい場合のルール例

- ①批判禁止
- ②たくさん出そう
- ③とっぴな案も歓迎
- ④連結・応用もOK

そして話し合いの際には、ぜひ、「問題解決のプロセスで話をする」ことに挑戦してみてください。このプロセスを推進員をはじめ地域の方々と実践していければ、課題解決はどんどん進むはずですよ。

<問題解決のプロセス>

- ①問題を発見し、みんなで共有する。
- ②問題の根本的な原因を探り当てる。
- ③問題の解決策を複数考え、適切なものを選ぶ。
- ④行動計画を作り、行動する。

住民を援助するコツ

ルールを守らない人は、実はごみ出しルールや分別の方法が分からなくて「困っている人」なのかもしれません。その困っている人を助けるのが「援助」です。援助する際には、次の点を心掛けましょう。

①責めない

ごみの出し方を間違えた人を責めれば責めるほど、かたくなになって反発される場合があります。「北風と太陽」の物語のように、暖かい太陽方式で、言葉や接し方を工夫して、良い関係づくりを心掛けましょう。

②世間の目を活用する

人は「世間の目」を気にしています。ごみを出す時間に集積所であいさつをしたり、近隣で花を植栽したりすることで、この地域ではいろいろな方が地域に関心を持ち、世話をし、手を掛けていることが伝わります。こうした地域では、ルール違反をしにくくなるものです。

③「指導する」から「相談に乗る」へ

推進員の皆さんが学んで身に付けたノウハウや工夫、情報を、地域の方々に伝えるのも大切な活動です。その際は、「指導する」よりも「相談に乗る」という接し方が効果的です。「○○○しなさい」よりも、「お困りですか。相談に乗りましょうか」「分からないことがあったら声を掛けてね」という言葉です。相手の個性に合わせて接し方を工夫しましょう。

④100%を目指さない。一人の100%より全員の80%

100%を目指すすと、つい間違えた人やできない人を責めてしまいがちです。誰でも間違いはあるもの。完璧な方が1人いるよりも、80%できる方を地域にたくさん増やしていきましょう。

⑤ほがらかに

堅い表情では声を掛けにくく、監視されているようで、ごみを出すのもおっくうになってしまいます。お顔はほがらかに、互いに気持ち良く言葉を交わしましょう。

⑥伝える内容と方法を工夫しよう

地域の方々に働き掛けるときには、「伝える内容・言葉」と「伝える方法」に知恵を絞りましょう。伝える内容や方法は、以下のようにさまざまあります。マンネリ化しないよう、内容と方法をいろいろ組み合わせて、目先に変化をつけてみましょう。

<伝える内容>

ごみの出し方ルール、困った例・良い例、住民の声、相談、写真、イラスト、テーマ別の情報提供・・・

<伝える方法>

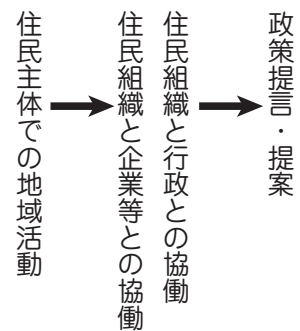
声掛け、町内会報や回覧板への掲載、チラシ配布、ポスター掲示、説明会開催、ホームページ利用・・・

住民組織・行政・企業等との「協働」の視点を持つ

最後に提案したいのが、「協働」の視点を持つことです。

普段の活動では「自分たちの地域は自分たちで良くしよう」が基本となりますが、自分たちだけで知恵を絞っても解決しにくい問題に出会う場合もあります。そんなときは、行政との「協働」で問題に取り組んでみてください。行政と一緒に、同じ目標に向かって汗をかき、知恵を出し合いながら、役割分担をして問題を解決していくのです。そのためにも、普段から、環境事業所や家庭ごみ減量課の職員、地域内の企業と情報交換や交流を図り、関係づくりをしておきましょう。

<取り組みのステップ>



また、協働でも解決できない場合は、住民組織として政策提案することも考えられます。地域に問題があれば、その実態を調査して、問題の解決策をさまざまな観点から探り、研究します。そして、住民ができること、行政が担うこと、協働ですること、新たに政策を立案すべきことに分けて考えるのです。他都市の事例も参考にできましょう。

「批判・文句」から「提案・実践」へ。市民力をアップしよう

「批判・文句を言う市民」から「提案し実践する市民」を目指しましょう。

推進員の活動は、私たちひとりひとりの「市民力」をアップして、住みやすく誇りのある地域を作る、大切な活動です。より良いまちづくりを目指して、みんなで力を合わせて取り組んでいきましょう。

テーマ1 地域の方にごみ出しルールを知ってもらうための工夫は？

- 子どもの登校時間帯に集積所で分別して、子どもの関心を引くようにした。そして家でも実践するよう呼びかけた。〔さつき町内会：27頁〕
- 間違いをその場ですぐに指摘せず、まず、相手と顔見知りになってからごみ出しルールを説明した。〔南石切町町内会：35頁〕
- 自発的にルールを守ってもらえるよう、鈴やペットボトルのフタ入れ、ごみを入れてきた袋の回収袋などを集積所に設置した。
〔南石切町町内会：35頁、八木山団地緑風会町内会：38頁、下町町内会：42頁〕
- 定期的に集積所の見回りを行い、改善点などを町内会だよりなどで周知する。〔山の寺第二町内会：41頁〕

テーマ2 ポスターを効果的なものにする工夫は？

- 子どもたちに啓発ポスターを作ってもらうことで、大人に関心を持ってもらうようにした〔清水沼町内会：28頁〕
- ポイ捨てる部外者を対象にした、視点を変えたポスターを製作した。〔遠見塚北親会：43頁〕
- 子どもたちにポスターを作ってもらうことで、子どもの頃からごみ問題に関心を持ってもらうようにした。更に 町内会の芋煮会で表彰式を行い、大人への波及効果を狙った。〔向陽台二丁目町内会：39頁〕

テーマ3 地域の方のごみへの関心を高めるには？

- ジュニアクリーンメイトを結成し、子どもたちと集積所廻りを行った。〔清水沼町内会：28頁〕
- ルールが守られていない集積所へ改善点を掲示し、意識してもらうようにした。〔安養寺上町内会：32頁〕
- 事情により町内会に加入していない方にも、集積所の清掃当番に参加してもらった。〔平洲町内会：43頁〕
- 缶・びん・ペットボトルの回収日に推進員全員で、つぶしたり、ラベルをはがしたりしていた〔虹の丘三丁目町内会：40頁〕
- 住民・町内会役員・事業者の3者で地域の一斉清掃を実施し、きれいな地域づくりが習慣になっている。〔中倉共栄会：37頁〕

テーマ4 ▶ カラスなどの鳥獣への対策は？

- 環境事業所と相談し、推進員の得意分野や特技を生かし、鳥獣対策を施した集積所を設置した。〔鶴ヶ谷北町内会：34頁〕
- ホームセンターを利用して安く材料を購入し、地域の協力を得ながら集積所の改修を行った。〔八木山団地緑風会町内会：38頁〕

テーマ5 ▶ 効果的なまち美化活動は？

- 地域の方に呼びかけて、町内挙げての大規模なクリーンアップ作戦を実施した。〔中山台町内会：29頁〕
- 部外者からのごみの持ち込みをされにくい場所に、集積所を移動した。〔中山台町内会：29頁〕
- 町内会だけでなく、地域内の企業など他の団体と連携して清掃活動に取り組んだ。〔名掛丁東名会：31頁〕
- 老人クラブや子ども会と連携して、花壇づくりに取り組んだ。〔南石切町町内会：35頁〕

テーマ6 ▶ ごみ減量への取り組みは？

- ごみの排出量を調査・記録し、その結果を表やグラフを使って町内会報でお知らせした。〔さつき町内会：27頁〕

テーマ7 ▶ 推進員やメイトを地域の方に知ってもらうには？ 推進員活動に協力してもらうには？

- 写真や動画で「推進員活動が見える化」して、地域の方に説明した。〔中山台町内会：29頁〕
- 住民が集まる集積所をきれいにして、掲示板を設置し、情報提供を行う〔山の寺第二町内会：41頁〕
- 相手を責めない態度とあいさつを心掛け、地域の方の理解を得るようにした。〔中倉新栄会：42頁〕

テーマ8 ▶ 推進員の輪を広げるには？ 仲間を増やすには？

- 推進員・メイト仲間の「お茶っこ飲み」で、地域の話をしながらか課題を洗い出すことが、住民から楽しく活動をしているように思われ、推進員・メイトの希望が増えた。〔南小泉町内会：36頁〕

テーマ9 ▶ その他の取り組み

- いろいろな形状の集積所で、使いやすさを探求した。〔さつき町内会：27頁〕
- 関係者全員で問題の原因を根本から話し合い、皆が納得する解決策を導いた。〔宮城野町内会：33頁〕

<事例 01>	さつき町内会	「ごみ排出量の見える化で、ごみ減量への意識付け」	27
<事例 02>	清水沼町内会	「子ども達への環境教育を通して地域マナーの向上へ」	28
<事例 03>	中山台町内会	「安全・安心なまちは、きれいな環境づくりから」	29
<事例 04>	名掛丁東名会	「企業も巻き込んで取り組む、きれいなまちづくり」	31
<事例 05>	安養寺上町内会	「町内みんなできれいな集積所を目指して」	32
<事例 06>	宮城野町会	「『そもそもの原因は?』 根本からの検討で問題解決」	33
<事例 07>	鶴ヶ谷北町内会	「鳥獣被害対策は計画的に 住民の得意技を集結」	34
<事例 08>	南石切町町内会	「まずは顔見知りになること。急がば回れの精神で」	35
<事例 09>	南小泉町内会	「地域で楽しく学習会 推進員活動はお茶っこ飲みから」	36
<事例 10>	中倉共栄会	「心に呼び掛けてマナーアップ」	37
<事例 11>	八木山団地緑風会町内会	「仲間とともに、アイデアあふれるごみ対策」	38
<事例 12>	向陽台二丁目町内会	「子どもたちへの環境教育を通してごみルールの普及啓発」	39
<事例 13>	虹の丘三丁目町内会	「できることからコツコツと集積所のステップアップ」	40
<事例 14>	山の寺第二町内会	「ごみ集積所を情報発信の場に」	41
<事例 15>	下町町内会	「手作りのフタ入れは、水抜きも備えた優れもの」	42
<事例 16>	中倉新栄会	「あいさつと責めない態度が、きれいなまちづくりの秘訣」	42
<事例 17>	遠見塚北親会	「車からのポイ捨て防止は、集積所へのポスターで」	43
<事例 18>	平瀬町内会	「きれいな集積所は、住民の理解と協力のおかげ」	43

*他の地域でも参考にさせていただける事例を、「保存版」として掲載しています（現在は行われていない取り組みもあります）。
また、町内会の役職等は取材当時のものです。

*集積所数、推進員数、メイト数は、平成30年2月時点のものです

*各事例の最後に掲載している「ここがいいね!」は、前項「推進員活動のすすめ」の執筆をお願いした、地域社会デザイン・ラボ代表 遠藤智栄氏に、「ここがすばらしい」という良い取り組みについて解説していただいたものです。

事例 1

ごみ排出量の見える化で、 ごみ減量への意識付け

【青葉区】さつき町内会
集積所数:23カ所

川平地区にある町内会です。「自分たちの地域は自分たちで」を合言葉に環境美化に取り組んでいます。



家庭ごみ収集日に排出量を調査・記録。 結果を、表やグラフで見える化

「環境のために各自が取り組めることは、ごみを減らすことです」と地域の推進員で協力し、地域の方の環境意識を高める独自の工夫をしています。

その工夫とは「ごみの排出状況が見える化」すること。集積所に出されたごみ袋数、リサイクル可能なものが混入したごみ袋数を調査・記録して、その結果を表やグラフを使って町内会報に分かりやすく掲載しているそうです。「この取り組みで、ごみの出し方や量を地域の皆さんに意識してもらえるようになりました」と、活動の手応えを語ります。

さつき町内会「家庭ごみ」 排出数実態調査の結果とお願い

H22・11～H23・6の排出数と、H23・11～H24・6の排出数の月別比較

年	月	A	B	パーセント	年	月	A	B	パーセント	A前年比	B前年比	
22	11	2290	1388	60	23	11	2139	1383	50	443	△ 5	
	12	2860	1529	53		12	2696	1467	54	△ 174	△ 62	
	23	1	2302	1289	56	24	1	2097	1198	57	△ 205	△ 91
	2	1874	991	53		2	2067	1140	55	193	149	
	3	1435	559	38		3	2068	1201	58	633	642	
	4	2555	1406	55		4	2072	1213	58	△ 483	△ 193	
	5	2542	1062	41		5	2949	1197	40	407	145	
	6	2915	1118	38		6	3007	1152	38	92	39	
	計	18719	9321	49		計	19679	9951	50	906	624	

A=家庭用ごみ排出数 B=リサイクル可能混入数 パーセント=家庭用ごみ排出数に対するリサイクル可能混入割合
A前年比=家庭用ごみ排出数の前年比 B前年比=リサイクル可能混入数の前年比

※ 過去8か月の結果から

- 1 ごみの排出数の増加・前年比で+906ヶ、 2 リサイクル可能混入数・前年比で+624ヶ
混入率が多い月で58パーセント、 8ヵ月平均でも月50パーセントも排出されております。

▲町内会報に掲載した記事

さまざまな形の集積所で理想の形状を探求

さつき町内会では、さまざまな形状の集積所を作って、その長所・短所を実体験しています。「掃除をされる方にはご負担を掛ける部分もありますが、



どの形状も
一長一短

使いやすい形を研究するため、協力をお願いしています」と話します。推進員の熱意が、地域の皆さんの理解と協力につながっています。

缶・びん・ペットボトルの収集日に実施する 子どもたちへのエコの種まき作戦

缶・びん・ペットボトル収集日には、あえて小学生の登校時間帯に集積所で作業をしています。子どもたちの好奇心をひきつけるためです。「面白そう」と寄ってきた子どもたちと一緒に正しい排出方法を実践して、最後に「お母さんにも教えてね」と伝えるのがポイント。「親より子どもたちに教えた方が効果的。子どもの話になら親も耳を傾けますからね」と話されていました。

こうしてまかれたエコの種は、子どもたちによって各家庭に持ち帰られ、大きく育つことでしょう。

👍 ここがいいね!

◆行動を変えていくには、地域の現状を知って危機感を共有することが大切です。その際に効果的な手法は、「調査」と「記録」から導いた「数字」で、実態を見せること。調査と記録は、政策を検討するときにも有益な手法なので、取り組んでみてください。

◆子どもは担い手でもあり世代間をつないでくれる大切な市民です。子どもの参画を工夫している活動は、ぜひ見習いたいですね。

事例 2

子ども達への環境教育を通して 地域マナーの向上へ

【宮城野区】清水沼町内会

集積所数:37カ所

宮城野区西部、青葉区に隣接した地域で、かつては谷地や沼が一面に続き、水の清涼にちなんで命名と伝承



子ども達を通じて 大人として恥ずかしくないごみ出しを

櫻井英男さんは、家庭ごみ等有料化説明会での環境局職員との出会いがきっかけで、平成21年から令和3年までクリーン仙台推進員として活動していました。

子ども達への環境教育の必要性を感じ、平成23年から集団資源回収に合わせて宮城野環境事業所の協力のもと出前講座を開催。講座では子ども達にマナー啓発ポスターを描いてもらい、地域の方がごみ問題を考える機会になればと集積所に掲示しました。子ども達がごみルールを守っているのに大人がいい加減ではいけないということを訴えかけました。

当初は講座参加者は子ども達が中心で大人は見ているだけでしたが、回を重ねるごとに保護者の方も積極的に参加していききました。



▲子ども達が作成したポスターをごみ集積所に掲示し、啓発を行った。

ごみルールを守って地域の コミュニケーションアップ

この活動により、地域の方の町内会活動への参加意識が高まり、行事への参加者が増えたり、以前は盆踊りの後の会場にはごみが散乱していましたが、次第には用意したごみ袋へ入れてもらえるようになるなど、様々な良い波及効果が見られるようになりました。

更に、出前講座や集団資源回収と一緒に活動した中学

生からあいさつをされることもあり、顔を覚えていただいて声をかけられることが大変うれしく思うとともに、町内でのコミュニケーションが増えたと感じていたとのことです。

平成29年には、学校の秋休み期間を利用し、小学校1年生から5年生11名が「ジュニアクリーンメイト」として推進員の皆様とごみ集積所排出実態調査を実施しました。(30年度は6年生含め15名)

子ども達は「これはルール違反のごみだね、これは粗大ごみの不法投棄だね」などと推進員の方と会話をしながら調査票に記入していきました。

櫻井さんは「長い時間をかけて地域の方々との信頼関係を築いてこれ、とてもよかった」と語られました。



▲ジュニアクリーンメイトの活動の様子

👍 ここがいいね!

◆子どもたちへの環境教育の必要性を感じたところから、出前講座での学習、啓発ポスターの制作など巻き込んで活動しています。小学校の秋休みには「ジュニアクリーンメイト」の活動を生み出しました。

◆子どもたちを「見ている大人」から「参加する大人」に変化させています。盆踊りでもゴミが減り、行事への参加が増え良い影響が広がっていますね。

事例 3

安全・安心なまちは、 きれいな環境づくりから

【青葉区】中山台町内会

集積所数:46カ所

若い世代の住人が多く、行事も多彩で活気がある町内会です。安全・安心で明るいまちづくりを目指しています。



町内挙げての一斉清掃を展開 環境意識が高い地域だと知られることに

「中山台町内会は住民の美化意識が高く、町内では路上にポイ捨てなどのごみは見当たりません。一方、東北自動車道と並行する山道沿いには、テレビ・冷蔵庫などの大型家電やタイヤ・ソファなど、不法投棄されたさまざまなごみが散乱していました」と話すのは、長年、中山台町内会で推進員を務める山崎義雄さん。「しまいには古タイヤが燃えるボヤ騒ぎまで発生してしまいました。このままの汚い環境では、また犯罪が起きてしまうと思い、活動を始めました」と振り返ります。

まず、山崎さんは地域の方々に呼びかけて、「クリーンアップ大作戦」と称した大規模な清掃活動を実施することにしました。

当日は小雨模様のあいにくの天気でしたが、青葉環境事業所の協力を得ながら、住民約200名で、長年放



◀ 小雨の中、多くの方が参加した「クリーンアップ大作戦」

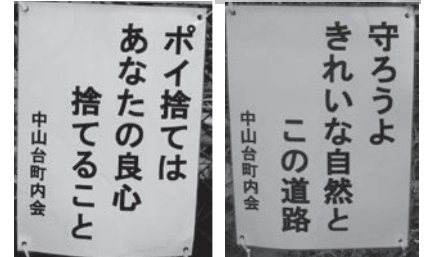
▶ 収集した不法投棄物（一部）。タイヤ・テレビ・冷蔵庫など、総重量は約850kgにも達しました



置されてきた不法投棄物の撤去と周辺の清掃を実施。この大作戦の様子は、新聞やテレビなどでも紹介され、環境意識の高い地域であると広く知られることとなり、不法投棄の抑止力となったそうです。

不法投棄されない環境づくりは 継続してこそ効果あり

クリーンアップ大作戦の実施でいったんはきれいになりましたが、このまま何もしなければすぐに元に戻ってしまうと思った山崎さんは、仙台市の協力を得て道路沿いに柵を設置したほか、暗く、人目に付かない場所には街灯を設置しました。



また、自分たち ▲道路に取り付けた柵と標語。町内会の地域の環境美 独自の標語は訴える力が違います。化にもっと関心を持ってもらうため、設置した柵に掲示する標語を募集したり、各戸の玄関灯や門灯をつけるよう協力を求めたりしました。さらに、年1回は、町内挙げての清掃活動も続けているそうです。

「不法投棄されない環境づくりに継続して取り組んでいるので、町内は以前と比較にならないほどきれいに保たれています」と山崎さんは手応えを語ります。

道路沿いの不法投棄が多い集積所は 本通りからは見えにくい場所に移動

山崎さんが次に取り組んだのは、大きな道路に面した集積所に不法投棄されるごみ対策です。

「この集積所は、以前に町内会で設置したものです。せっかく立派なものを作ったのですが、場所が良くありませんでした。収集日や時間に関係なく、通りすがりに粗大ごみなどが捨てられることもしばしば。そこで、思い切って集積所を本通りから見えない場所に移すことにしたんです」と山崎さんは振り返ります。新しい集積所は、それまでの場所からさほど遠くない位置にありながら、通り過ぎるの車からは全く見えなくなり、不法投棄されるごみはなくなったそうです。

山崎さんは「集積所を移すのは難しい場合が多いと聞きますが、今回の場合は、土地の所有者が快く場所を提供してくれました。今まで利用していた方々も集積所の移設に理解してくれています。解決に至ったのも、全て地域の皆さんの協力のおかげです」と話します。



◀ 通りすがりにごみが投棄されることが多かった、道路沿いの集積所

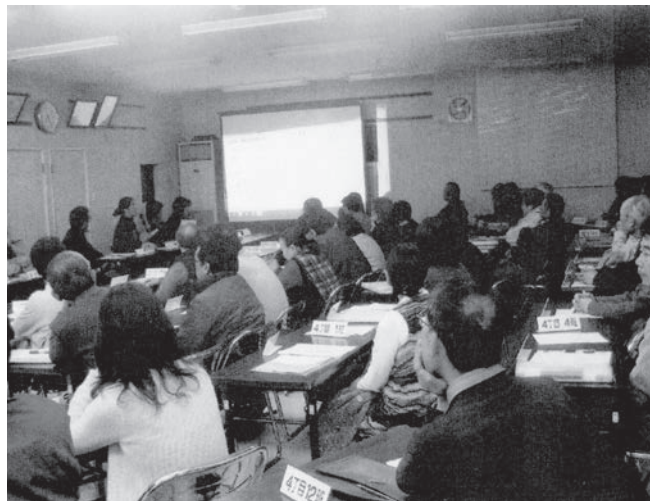
▶ 移設した新しい集積所。本通りから見えなくなっただけでなく、大きくて使いやすくなりました



地域の皆さんの理解を深めるには 「活動の見える化」が効果的

地域の環境美化を推進するためには、その地域に住む一人一人の協力が大切です。いくら推進員が町内の清掃やパトロールなどに取り組んでも、地域の皆さんに理解と協力がないと、活動を継続するのは難しく、また効果も上がりません。

そこで、山崎さんは「活動の見える化」を行うこ



▲「見える化」された町内会班長会議

とに。総会や班長会議において、文章や口頭による報告ではなかなか伝えきれない活動を、写真や動画のスライドを作って上映しました。「画像を見ながらの推進員活動の報告は、特に若い世代の方々へのアピール度が高かったようです。分かりやすかったと、とても好評でした」と、山崎さんは手応えを語ります。

不法投棄されにくい環境づくりが 安全・安心なまちづくりへの第一歩

中山台町内会では、こうしたさまざまな不法投棄されにくい環境づくりが実を結び、不法投棄されることがほとんどなくなりました。また、町内の環境整備が行き届くようになったことで、空き巣等の被害に遭う方もいなくなるなど、うれしい波及効果も生まれているそうです。

「ごみのない、美しいまちに犯罪は起こらないと考えています」と山崎さん。中山台町内会では「きれいで安全・安心なまちづくり」が進んでいます。

👍 ここがいいね!

◆行政と「協働」して、効果的に活動を進めていますね。「協働」とは、「異なる組織同士が、同じ目的に向かって、互いの資源を持ち寄りながら取り組むこと」です。ごみ問題は、住民と行政の共通の課題です。地域の実態を把握してそれを市役所の方とも共有しながら、信頼関係をつくっていきましょう。

◆「見える化」の工夫をしていますね。文章を読み上げる説明と、写真や動画を使って視覚に訴え掛ける説明では、どちらが印象に残るでしょうか。普段の活動を撮りためて、記録として残しておく、強力な道具になりますね。

事例 4

企業も巻き込んで取り組む、 きれいなまちづくり

【宮城野区】名掛丁東名会

集積所数:3カ所

仙台駅東口に位置する町内会です。区画整理が進み、集合住宅やオフィスが増え、地域環境が変化しています



活動の始まりは 楽しみながら取り組むタバコの吸殻拾い

平成21年から推進員を務める渡邊昭男さんは、推進員になる前から、ボランティアでポイ捨てされたタバコの吸殻拾いを続けてきました。「この地域は駅に隣接していて、タバコのポイ捨てがなかなか無くなりません。退職を機に、地域貢献にと始めました」とその動機を話す渡邊さん。ただ拾うだけではつまらないので、拾った本数を数えてみることにしたそうです。

渡邊さんは、吸殻拾いを続けているうちに、拾った本数で地域の様子が伺い知れることに気がきました。「にぎやかだった日は拾う本数が多く、寒い日や天気の良い日などは少なくなります。本来であれば本数が多いのは良いことではないのですが、人通りが多かったということですから、うれしく思うこともあるんですよ」とほほ笑みます。

渡邊さんは、たくさんある吸殻にも自分なりのプラスの意味を見つけることで、楽しみながら活動を続けています。

地域内の企業も巻き込んで一緒に活動 住人と企業が連携してまちづくり

名掛丁東名会は、伊達藩政時代には「武家のまち」として栄えた歴史の古い地域ですが、近年、区画整理が進み、趣が一変。昔からの住人は13世帯に減り、集合住宅や事業所、駐車場が目立つようになってきました。

そこで渡邊さんは、「イベントを開催する時には、地域内の企業にも協賛をお願いすることにしました。

これを契機に良好な関係を築き、協働でのまちづくりにつなげていきたいと考えています」と話します。平成21年には、町内会行事の一環として行う一斉清掃に参加してもらうなど、一緒に活動する機会が少しずつ増えているそうです。

渡邊さんは「町内会と企業が一緒に行う清掃活動は、単にまちをきれいにはしているだけではありません。一緒に汗を流すうちに、住みよいまちをつくることへの連帯意識が生まれてくるのではないのでしょうか」と、協働することがもたらす波及効果を教えてください。

名掛丁東名会では、駅に近く、オフィス等が多いという地域の特性をうまく生かして、町内会と企業が連携した、新しい形での「きれいなまちづくり」が進んでいます。



▲一斉清掃には、背広姿の会社員や工事現場の方、おすし屋さんなど、12社40人の皆さんが参加してくれました

👍 ここがいいね!

- ◆推進員の活動を楽しみながら実践されていますね。活動を続ける時に大切にしたい事です。
- ◆企業はSDGsやCSR、SR（企業や組織の社会的責任）の取り組みとして、地域貢献や地域の問題解決にどう参画しているかが問われる時代です。そのきっかけを地域から提案することは、企業にとってもありがたいことかもしれませんね。

事例 5

町内みんなできれいな集積所を目指して

【宮城野区】安養寺上町内会

集積所数:8カ所

安養寺上町内会は青葉区、泉区と接した高台に位置する町内会です。

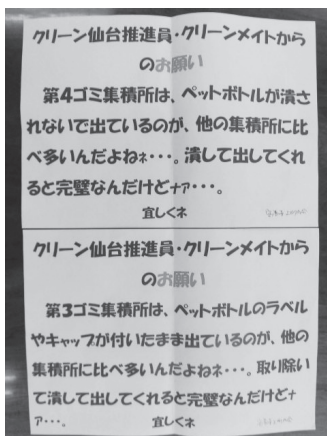


ごみ集積所の掲示板が 住民のコミュニケーションの場

町内会長も兼務している鈴木克美さんは、ごみ集積所は地域の皆さんが必ず集まる場所と考えて、掲示板を設置し、ごみ出しルールの広報を行っています。

掲示物は、環境事業所と相談して作成したもので、原本は手元に置き、古くなったものや破損した場合はその都度ラミネート加工をして貼り替えます。掲示物は長期間貼っておくと、見てもらえなくなるので、定期的に貼り替えて新鮮さを保つようにしています。

最近では、自分たちが使用している集積所がどのような状況なのか、皆さんにわかってもらいたいということで、集積所毎の改善点をやさしい言葉で掲示し、更なるごみ出しルールの周知を行っています。



当番表を作成して みんなで集積所清掃

現在は3名の推進員と1名のメイトの4名で活動しています。定期的に全員で黄色のベストを着用してごみ集積所のパトロールを行うことで、地域に推進員活動が認識されたこと、また、11の班で8ヶ所の集積所の当番表を作ってみんなに掃除をしてもらっていることから、地域全体で集積所をきれいに使おうとの意識が高くなってきており、結果として、ごみ出しルール

の向上につながっているようです。

鈴木さんは、入学や転勤の時期に新たに住人となった方々へもコンタクトをとり、ごみ出しルールの説明をされています。最初はルールが守られずに、レジ袋で出されたり、粗大ごみが出されたりといったことがあるようですが、その様な人を見かけたときに、「指定袋で出していただくと助かります」と言って協力を求めたり、ルールを守ってもらえれば「協力いただきありがとうございます」などと声を掛けて、相手の気持ちを協力していただける方向に向かう様な話し方を心掛けているとのことでした。

そのような活動の結果

- ・ルールを守らずにいられない集積所
- ・ルールを守らないと恰好悪い

という地域になり、「うちの町内会はレジ袋で出す人は”ゼロ”です」と胸を張ってお話をされています。

これらは、1、2年で達成できたわけではなく、長い間、コツコツ活動を続け、町内の皆さんに浸透していった結果であるとのことでした。

これからは、更なる取り組みとして、プラスチック製容器包装や紙類など、分別に力を入れたいと意気込んでおられます。

👍 ここがいいね!

- ◆誰にでも見やすい掲示と飽きられないよう定期的な張り替えが素晴らしい!
- ◆広報・掲示の工夫をして、ごみ出しルールをしっかり伝え、集積所ごとの改善点を掲示しています。
- ◆「助かります」「ありがとう」と気持ちの良い言葉を掛け合っています。
- ◆新たな住民向けの広報、引っ越して来た方だからこそ「丁寧にお知らせ」ですね。

事例 6

「そもそもの原因は？」 根本からの検討で問題解決

【宮城野区】宮城野町会

集積所数:11カ所

「楽天モバイルパーク宮城」に隣接する町内会です。古くからの住人が多く、高齢化が進んでいます。



問題解決のためには まず関係者全員が集まって話し合うことが大切

「事の始まりは、宮城野環境事業所に入った一本の電話でした」と話すのは、推進員を引退し、現在は町内会の役員として推進員・メイトの皆さんのバックアップに力を注ぐ亀森久信さんです。電話の内容は、「集積所から流れてくる汚水の臭いがひどいので、集積所を移設してほしい」というものでした。

宮城野町会では、集積所ごとに利用している世帯の中からメイトを一人ずつ選出してもらい、メイトそれぞれができる範囲で、集積所の管理をすることにしています。

早速、亀森さんは、問題の集積所を担当するメイトの今野さんと町内会長に相談を持ち掛けました。その結果、利用している方全員で話し合おうということになったのだそうです。



▲宮城野町会では、集積所での活動に役立つ物品をメイトに配布して支援しています

みんなが納得する解決策は 問題の根本となる原因を取り除くこと

話し合いの場には、その集積所を利用している方々に加えて、困っているご本人にも参加してもらいました。まず、集積所で今どんな問題が起きているのか、集積所の前に住む方がどんな嫌な思いをしているのかについて説明し、みんなで情報を共有した後、自由に意見を出し合いました。

「『近くの空き地に移したらいいのでは』『うちの前は困る』など、皆さんの視点は『集積所をどこに移すか』だけに向いていました」と、話し合いの様子を語る亀森さん。「しかし、集積所を移設しただけでは、『臭いがひどい』という問題は解決しません。また、移設場所として候補に出た空き地は今以上に人目に付かない場所で、ポイ捨て増加などの懸念もありました。そこで、『臭いの原因となっている汚水は、なぜ出るのか。皆さんが出す生ごみから出ているのでは』と、参加者に問い掛けてみたのです」。

結局、その日の話し合いは結論が出ないまま解散となりましたが、数日後に今野さんに結果を聞いてみると、集積所を移設するのではなく、みんなでごみの出し方を注意すること、そして集積所の管理を人任せにせず、持ち回りで清掃を担当するというので、意見がまとまったとのことでした。

宮城野町会では、利害関係者全員が参加する場で、問題を根幹から見つめ直し、さまざまな視点で自由に改善策を出し合うことで、みんなが納得する結論を導くことができたのでした。

👍 ここがいいね!

◆困り事や問題には、いろいろな側面があります。すぐに結論に飛び付くのではなく、「本当の問題は何だろう」をみんなで考えることができると、問題解決の質が高まります。「状況・問題を知る」→「思いを語る」→「解決アイデアを多数探る」→「最も効果的な取り組みを選ぶ」→「実践する」のサイクルをさらに回していきましょう。

◆話し合いには、話しやすい場をつくり、しっかり聴き合うことが大切。思いの共有につながります。

鳥獣被害対策は計画的に 住民の得意技を集結

【宮城野区】鶴ヶ谷北町内会

集積所数:20カ所

宮城野区北部の泉区と隣接する高台に位置する町内会。
役員を中心に日々、住環境の整備に取り組む町内会。



推進員としての初活動は 集積所の鳥獣対策

鶴ヶ谷北町内会は、平成27年7月に推進員3名、メイト10名の体制で活動をスタートしました。現在では総勢15名で街の美化に取り組んでいます。

他の町内会と同様に長い間、ごみ集積所での鳥獣被害に悩まされており、地域の方々から町内会へ改善要望も多々ありました。そこで推進員・メイトとして最初に取り組んだのが、きれいな集積所整備に向けた活動でした。

整備に先立ち、集積所の利用実態を調査しました。全戸にどの集積所を利用しているかのアンケート調査を実施し、工作物の大きさを決めるため、集積所ごとの排出量を確認しました。同時に、宮城野環境事業所と改善の相談を重ね、鳥獣被害対策用の工作物の見本を提供してもらいました。これを基に町内会の方々が、それぞれの得意分野で力を発揮し、排出量に応じた規格の図面作成やどのような部材が適切かなどの検討・調達を行い、28年度は20カ所中9カ所の集積所に工作物を設置しました。

設置の効果は大きく、今ではほとんど被害はないとのこと。更に集積所がきれいになったことで、今まで見られたレジ袋などのポイ捨てもなくなったそうです。今後は、整備した地区から未整備の地区へカラスが流れていったため、未整備地区の集積所の整備を目指すとのこと。

更なるまち美化をめざし 定期的に改善の打合せ

15名の推進員・メイトの皆さんは勉強熱心で定期的集まり、改善点や課題について話し合いを行っています。また、環境局主催の学習会や区の研修会にも積極的に参加されており、他の町内会の活動の話に熱心に耳を傾け、自分たちの活動に活かしています。

更に、これまでの活動を客観的に評価するため「五つ星集積所診断」にチャレンジし、3年連続で「五つ星集積所」の称号を取得しました。現在までに7カ所が「五つ星集積所」となりました。

いずれは全ての集積所が「五つ星集積所」となれるよう地域の方々と一丸となって、ごみ減量・リサイクル推進や環境美化等に



取り組まれるとのこと。

▲地域の方が分担して作成した工作物

👍 ここがいいね!

- ◆現状把握：集積所の利用実態を調査することで設置する工作物の大きさをしっかり把握しています。
- ◆創意工夫：市民の手で、鳥獣被害工作物の図面を作成、そして製作されました。
- ◆定期的集い：市民同士で問題解決や目標達成をするために定期的な話し合いを実践されています。
- ◆研修や講座の活用：さらに効果的な活動をするために学びと実践を繰り返しています。

事例 8

まずは顔見知りになること。 急がば回れの精神で

【若林区】南石切町町内会

集積所数:6カ所

地下鉄河原町駅の東側に位置する町内会です。交通の便が良いことから、転勤族も多く住んでいます。



「急がば回れ」が 相手に快く話を聞いてもらうポイント

南石切町町内会で推進員を務める片岡昭男さんが日々心掛けていることは、「急がば回れ」です。

交通の便が良い南石切町町内会には転勤族が多く、そうした方々は、以前住んでいた自治体のごみ出しルールをそのまま続けてしまうことも多いそうです。

「間違っただけを出し方をしてもグッとこらえて、最初はあいさつを交わすだけ。知らない人からいきなり注意されても、嫌な思いが残るだけですからね」と片岡さん。少しずつ相手との距離を縮めていき、良い関係を作ると、注意も聞いてもらいやすいのだとか。

片岡さんのやり方は、一見すると遠回りに感じますが、地域の皆さんの協力を得る、最短で効果的な方法になっています。

言葉ではなく、見て分かる「袋はこっち」のサイン

出勤途中にごみを出す方が多い南石切町町内会では、缶などを入れてきた袋ごと回収容器に出されることが多く、すぐに容器がいっぱいになるのが悩みの種でした。



▲回収袋には、見本のレジ袋を入れてスタンバイ

そこで片岡さんは、入れてきた袋の回収袋を回収容器に取り付けてみることに。すると、回収袋の意味を自ら理解して、缶などは袋から出して入れてくれるようになったとか。「今ではこのルールがすっかり定着しました」と片岡さんは教えてくれました。

花のプランターがもたらす効果は「一石四鳥」

町内の道路沿いには、老人クラブと子ども会の皆さんで育てた、色鮮やかな花が咲くプランターが置いてあります。子どもとの交流もできるこの活動は、高齢の方の生きがいにもなっているそうです。

片岡さんは、「きれいな花が咲いているところにポイ捨てる人はいません。近くに住む方が水をあげてくれるので、道路の見回りにもなり、防犯にも役立っているんですよ」とほほ笑みます。

色とりどりの花々は、見る人の心を和ませるのはもちろん、生きがいづくり、ポイ捨て防止、防犯と、「一石四鳥」の効果を与えています。



👍 ここがいいね!

◆ごみ出しルールを守らない方は、知る機会がなかった方ともいえます。まさに「転勤族」の方がそうですね。だからこそ、片岡さんの行動は効果的なのです。慣れない土地で不安な転勤族の皆さんが、地域に関心と愛着を持つきっかけとなるでしょう。

◆花のプランターのように、地域のさまざまな人の手間と思いが集まった活動は、地域への関心を高め、人々の関係づくりの潤滑油になります。自分の地域では何が「人の思い」を集めるか、考えてみましょう。

事例 9

地域で楽しく学習会 推進員活動はお茶っこ飲みから

【若林区】南小泉町内会

集積所数:101カ所

若林区の中央部に位置する、地元で生まれ育った方が多く
人情味があふれた地域。市内有数のマンモス町内会。



楽しい集積所点検と学習会で マナーアップ

南小泉町内会の約半数の集積所には、収集日の案内以外は、仙台市から配布されたごみ減量キャンペーンのポスターと「五つ星集積所」の認定プレート以外は掲示されておりません。注意喚起するものではありません。それでも、きれいに整理されています。

これは推進員・メイトの皆さんが若林環境事業所の協力の基に、集積所点検と学習会を年2回開催しているからです。参加者は各班長さんの他、多くの方が参加しており、中には、赤ちゃんを連れた若い世代の方も参加されます。更に、各地区の区長さんに集積所を回っていただいていることも集積所がきれいな理由です。



▲排出ルールが守られていて整理された集積所

学習会のつながりから 地域のつながりへ

若い世代の方が学習会に参加いただけるようになって、異なる世代の方ともコミュニケーションが取れるようになりました。余所の地域から来られた方を上手く仲間に入れて、更に若い世代のコミュニティに働きかければ、もっとごみ出しルールが浸透していくと考えています。ごみ出しルールを守ってもらうためのヒントになればと考えています。

推進員の早坂きみ子さんは推進員活動を自らが楽しんでいます。その姿が他の方にも楽しそうに見えるとのことで、推進員として活動したいとの申し出がたくさんあります。皆さんからあこがれの目で見ただけなのは大変うれしく思うとのことですが、活動を続けていくためには、みんなが楽しまなければ続けていくことが難しいと考えているようで、

- ・仲間が集まったの「お茶っこ飲み」は大事
 - ・いろんな事を言い合うのが大事
 - ・出来ないものはできないので無理しない
- をモットーに活動を続けていきたいとのこと。



👍 ここがいいね!

- ◆多くの住民を巻き込んで、ごみを自分ごととして考える機会や場を作っています。
- ◆異世代間でコミュニケーションが取れていて、若い世代への働きかけが、ごみ減量やまち美化につながっています。
- ◆推進員活動で自分が楽しむ姿を見せることが、多様な住民が関心を持ち、巻き込むきっかけになっています。
- ◆共通理解として、3つのモットーを作り、無理なく活動するポイントを伝えています。

心に呼び掛けて マナーアップ

【若林区】中倉共栄会

集積所数:15カ所

若林区北部に位置する幹線道路沿いに広がる住宅地。現役を退いた方々が特技を生かし町内会へ貢献している。



3者協働で まち美化の習慣を受け継いで

中倉共栄会で町内会長とクリーン仙台推進員を兼務されている佐々木伸さんは平成20年から活動をされています。

幹線道路沿いに大型店舗や事業所が立ち並ぶ地域で、一歩奥に入ると閑静な住宅が広がる街ですが、道幅が狭く集積所の設置に苦労したとのことで、これまでの町内会役員の方々が狭い土地でも道路を塞ぐ事無くごみが置けるようにと、棚状の工作物を設置しました。現在でも役員の方々が修理をしながら大切に使用しています。

当町内会は、街をきれいにする活動が盛んな地域で、住民、町内会役員、民間企業の三者で街の見回りを行っています。街をきれいにする習慣が住民の方に代々受け継がれている地域です。

ほとんどごみが落ちていないきれいな街並みですが、それでも、ルールを守っていただけない方がいるそうです。頭ごなしに注意すると反感を招くこともあるので、「みんなきれいな街に住みたいよね」、「子ども達に汚れた街を見せたくないよね」などと心に訴えかけるように協力を求めるそうです。

高齢化を逆手にとって 利便性を求め集積所を増設

当地区においても住民の高齢化が進み、集積所までのごみ出しが大変だという相談が増えてきました。そこで、住民の利便性を考慮し、ごみ集積所の数を増やすことにしましたが、道幅が狭く、集積所の確保が難

しいことから、若林環境事業所と相談し、鳥獣被害にあいにくく、場所をとらない「ハンサムネット」を設置しました。今では、ごみ出しが楽になり、集積所も汚れず、地域の方から感謝されているとのこと。地域の方々もごみ集積所増設への理解や、役員の方々の皆さまで集積所が増える事への有益性を地域の方から理解が得られるよう説明した成果だと思えます。

推進員の藤岡浩三さんは、「この町内会は現役を退いた方がそれぞれの特技を生かし、集積所の整備や地域運営に貢献している素晴らしい町内会です。」と話されていたことが印象的でした。



◀代々受け継がれているごみ集積所の工作物

▶新たに設置したごみ集積所(ハンサムネット)



👍 ここがいいね!

- ◆狭い土地だからこそ、知恵を出して棚状の工作物の集積所を製作し、地域の利便性を考えました。
- ◆民間企業・住民・役員との連携：三者が連携し、街をきれいにする習慣が受け継がれています。
- ◆ありがたい姿を言葉にして住民の心に語りかけるように働きかけられています。
- ◆集積所の増設も退職後の住民の力を生かして実行。行動力が素晴らしい。

仲間とともに、 アイデアあふれるごみ対策

【太白区】八木山団地緑風会町内会

集積所数:2カ所

閑静な住宅街にある町内会です。戸建て住宅が多くを占めていますが、アパートも点在しています。



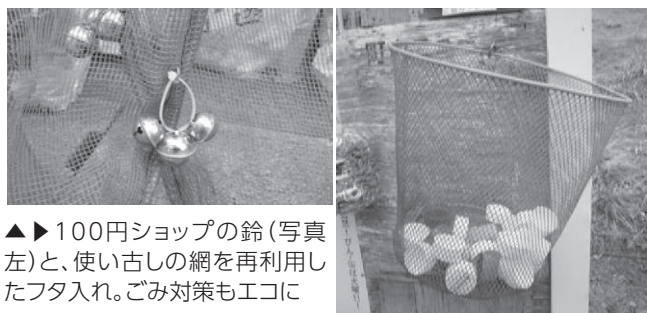
集積所に施す、さまざまなアイデアで 種々の定番課題を解決

「良いと思ったことは、まずやってみる」という推進員の井口敬二さん。持ち前の実行力をフルに発揮して、これまで数々の課題を解決してきました。

まずは、集積所を荒らす「カラスや猫などへの対策」。井口さんは、鉄製の枠だけだった集積所に、ホームセンターで買ってきた安い材料を使って、手作りのネットカバーを取り付けました。このネットカバーは効果きめんで、カラスや猫などによる被害が激減したそうです。

2つ目は、集積所での「時間外のごみ出し対策」。井口さんが考えた方法は、ネットに鈴を取り付ける「音が気になる作戦」。鈴の音は決して大きな音ではありませんが、ネットを動かすと鈴が鳴るため、人に与える心理効果は絶大です。「時間外のごみ出しへの効果は上々」と井口さんはほほ笑みます。

3つ目は、「ペットボトルの出し方改善」。地域の皆さんの自発的な行動を促そうと考えた井口さんは、集積所隣の掲示板に「フタ入れ」を設置し、フタを外して出すことを意識してもらえるようにしました。すると、次第に他のルールにも意識が向くようになり、フタを外すだけでなく、洗って出してくれるようになるなど、予想以上の効果を上げているそうです。



▲▶100円ショップの鈴(写真左)と、使い古しの網を再利用したフタ入れ。ごみ対策もエコに

苦渋を分かち合う仲間ができたことで さらに効果的な活動が可能に

井口さんは、現在、もう一人の推進員の松村有司さんと二人三脚で活動しています。川へのポイ捨てをいつも注意している松村さんの姿を見た井口さんが、推進員に推薦したのだとか。「推進員の活動は、嫌味を言われたりして苦勞がつきもの。二人での活動は心強いです」と井口さんは話します。

苦渋を分かち合う仲間ができたことで、アイデアにも磨きがかかったお二人。仙台市発行のパンフレット「資源とごみの分け方・出し方」を携帯しやすく加工するなど、独創的で効果的な活動を展開しています。



▲集積所での活動に便利な、携帯版「資源とごみの分け方・出し方」

👍 ここがいいね!

◆「良いと思ったことはまずやってみる」というアクションは、地域課題を解決していく上でとても重要です。小さな実践から、次が見えてくることも多いからです。そこに、住民同士のアイデアや意見が加われば、さら精度が高まりますね。

◆1人だけから2人での活動になる事で、問題解決の工夫が進みました。仲間づくりは大事ですね。

子どもたちへの環境教育を通して ごみルールを普及啓発

【泉区】向陽台二丁目町内会

集積所数:8カ所

泉区北東部、富谷市に隣接する地域で、小高い丘に立地する閑静な住宅地です。



「ごみ集積所排出実態調査」で 排出ルールを集中広報

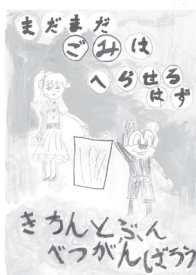
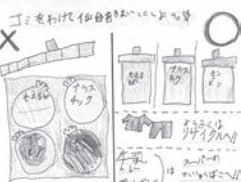
向陽台二丁目町内会では、地域の皆さんに、ごみの分け方や出し方を守ってもらうために、年間を通して広報するより、短期間で集中的に広報することが効果的だと考えました。そこで、クリーン仙台推進員の事業として実施する、ごみ集積所排出実態調査実施期間の10月を、町内会独自で「クリーン推進月間」とすることを決めました。

クリーン推進月間では、排出実態調査に町内会として積極的に参加するほか、町内の一斉清掃、ポスターコンテストの企画など、さまざまな取り組みを行っています。

中でもクリーン推進月間の目玉であるポスターコンテストは、子ども会と町内会が連携し、「ごみの出し方」をテーマに町内の小学生に作品を募集します。集まった作品は、推進員と町内会理事会で審査した後に集積所に掲示され、地域の方がごみ出しの際に目にするようになります。また受賞者は、町内約300名が集まる芋煮会の会場で町内会長から表彰されます。

平成30年度・向陽台2丁目町内会
クリーン月間活動

クリーンポスター
低学年の部
1~3年生



子どもたちがポスターを描くために ルールを学ぶ環境教育

「子どものころからごみの出し方のルールに触れ学ぶことは、環境教育につながる大切なことです。」と町内会長を兼務されている飯野泰康さんはお考えです。ポスターを描くために子ども達がごみルールを調べると、周りの大人も子どもだけに任せておけないと意識するようになります。また、集積所に自分の描いたポスターが貼りだされると、子ども達が進んでごみ出しのお手伝いをするようになったという効果につながるそうです。

地域ぐるみで子どもたちの環境に対する意識を育てていく方法を教えていただきました。

クリーンポスター
高学年の部
4~6年生



👍 ここがいいね!

◆期間を設定することで、住民が意識する機会が増えましたね。子どもたちが書いたポスターを集積所に掲示することで、家族・地域へのアピールにもなります。地域の多くの方に知ってもらうための広報作戦を多様に実践していますね。

◆町内300名が集う場での表彰によって、ごみ出しに関するモデル像を示すことに繋がっています。

できることからコツコツと 集積所のステップアップ

【泉区】虹の丘三丁目町内会

集積所数:7カ所

泉区南部に位置し、青葉区と隣接した地域で、公園や水辺を有する、緑豊かな静かな住宅街です。



コツコツと集積所の ステップアップ

虹の丘三丁目町内会の推進員・メイトの皆さんは、活動時は、全員ベストを着用し団体で活動しています。目立つことで地域に活動を知ってもらえて、ごみ出しルールに興味を持ってもらえる。街がきれいになり、更に、新たに仲間として活動していただける方も増えるとの理由からです。

取材当時の推進員の方は平成24年に町内会長就任時に、クリーン仙台推進員制度を知り、自ら推進員として活動を始めました。きれいな街に住みたいとの思いから、当時の福利厚生部長と2人でスタートし、現在では、町内会役員その他、推進員活動に賛同いただいた方も含め、5名の推進員と2名のメイトで活動しています。

就任当初は鳥獣被害が深刻で、地域から改善の要望が寄せられていました。そのときパイプを組みネットをかぶせる構築物の存在を知り、試験導入を経て全集積所に導入しました。今では鳥獣被害はありません。

次に取り組んだのは、缶・びん・ペットボトルの出し方ルールの徹底です。キャップやラベルが付いたまま、カゴから溢れて散乱している状況だったところを、一つずつキャップやラベルを剥がして潰し、コンパネ製の出し方ルールを描いた看板を掲示したところ、5~6カ月でほぼ完ぺきな状態で集積所へ出しているようになりました。



▲集積所に設置している構築物と町内会の方が描いた看板

分別意識の高まりから 「五つ星集積所」へチャレンジ

町内会で、ごみ分別・減量・リサイクルの取り組みとして、平成26年から「五つ星集積所診断」へのチャレンジを始めました。中には一回で五つ星集積所をもらえなかったところもありましたが、あきらめず翌年に再度チャレンジし、平成28年までの3年間で、町内全ての集積所で「五つ星集積所」の認定を受けることができました

街がきれいになることで、みんなが喜び、自発的に活動してもらえるようになったこと。集積所をきれいにすると汚せないという気持ちになり、更にきれいになる。とてもよいサイクルができたと思いますと感想を述べられておられました。



◀ 絵の得意な町内会会員に作成依頼した啓発ポスター

👍 ここがいいね!

- ◆推進員の認知度が上がれば、課題認識も同時に進みます。
- ◆すぐに一気に進めるのは難しいものです。やり方を提示し、実践し、時間をかけながら段階的な取り組みにチャレンジしていますね。
- ◆自分たちの行動によるまち美化を実感できれば、さらに活動に弾みがつきますね。活動のふりかえりを行って、小さな変化に気づくことも大切です。

事例 14

ごみ集積所を 情報発信の場に

【泉区】山の寺第二町内会

集積所数:13カ所

泉区北東部の、泉ヶ岳が一望できる閑静な住宅地です。
地域が一丸となって美化活動を行っています。



地域の見張り番 環境美化は集積所の見回りから

山の寺第二町内会は戸建て、集合住宅世帯がほぼ半数ずつの約800世帯が暮らしており、9名の推進員で活動しています。

クリーン仙台推進員活動を始めて10年程になりますが、当初は排出曜日が守られないことや、粗大ごみが出されることもあったため、泉環境事業所と協力して出前講座を開催し、住民へごみ出しルールの周知を図ったほか、自分たちも学習会や分別研修会に参加して自己研鑽に努めました。

日々の活動として、ごみ出しに来られた方に分け方をお伝えし、缶・びん・ペットボトルの収集日にはラベル剥がしやペットボトル潰しを行っています。

また、定例で町内13カ所の集積所の見回りを実施し、排出状況の確認を行っています。この情報を町内会の役員会に取り上げ、問題点や改善点を町内会だより等でお知らせしています。集積所の課題を推進員だけではなく、町内会と協働して地域全体で解決しています。

更に、町内会総会の資料に推進員名簿を掲載するようになったところ、活動が地域に認知されるようにな

り、それとともにごみ出しのマナーも良くなってきたとのことでした。

集積所を地域の掲示板に

「集積所は町内会行事の案内の掲示や、ごみを出しに来た方と世間話をするなどコミュニケーションの場にもなっています。だから、いつもきれいにしないとね」と誇らしげに話されている様子が印象的でした。

今後も環境事業所と作戦を練りながら、できるだけ自分たちの力で地域をきれいにしていきます、との力強いお言葉をいただきました。



▲ごみ集積所を掲示板代わりに使用。みんなが集まるのでコミュニケーションの場にもなる。



▲定例のごみ集積所の見回り

👍 ここがいいね!

- ◆出前講座の実施や学習会・研修会に参加し学ぶことで、地域や自分のことがより見えるようになりましたね。
- 集積所を巡回することで地域の変化をつかみました。町内会だよりの回覧によって、実態を具体的に伝える効果があったことでしょう。
- 総会資料へ推進員の氏名を記載することで、認知が進み活動がしやすくなったのではないのでしょうか。

事例 15

手作りのフタ入れは、 水抜きも備えた優れもの

【青葉区】下町町内会

集積所数:85カ所



仙台市が主催する学習会への参加をきっかけに活動を始めた、推進員の加藤まさ子さんが気になっていたのは、集積所でフタが付いたままのペットボトルを多く見かけることでした。「フタを外して」とポスターを貼っても、外したフタの始末に困ると思った加藤さんは、フタを入れる容器を集積所につるすことを思い付きました。

入れやすく、雨が降っても水がたまらないようにと試行錯誤の末、飲み終わったペットボトルを切って逆さまにしたフタ入れが完成しました。入れ口は大きく、底のフタを回せば水抜きも簡単にできる優れものです。

「フタ入れを設置してから、皆さんがペットボトルのフタを外して出してくれるようになりました」と加藤さん。ごみを出す人の気持ちで考える加藤さんの取り組みが効果を上げています。

👍 ここがいいね!

「フタをはずして」で気になった「フタ」。そこから「フタ入れ」を自作し、集積場に設置した加藤さん。人の行動や心理で疑問に思ったことを行動にしました。今後も「気付き」をアクションにつなげてくださいね。

事例 16

あいさつと責めない態度が、 きれいなまちづくりの秘訣

【若林区】中倉新栄会

集積所数:5カ所



中倉新栄会では、推進員の皆さんがあうんの呼吸できれいなまちづくりに向けた活動を続けています。ごく自然に役割分担が決まり、集積所の見回りや清掃、鳥獣対策用ネットの設置、通学路の草刈りなど、各々が自らの役割をきちんと果たした結果、活動を始めた頃とは見違えるほど、町内はきれいになりました。

そんな推進員の皆さんが活動するうえで心掛けているのは、「あいさつ」と「相手を決して責めない」こと。「集積所では、ごみの出し方が間違っても決して注意しません。集積所の清掃をしながら、あいさつを繰り返すだけ」と

皆さんは声をそろえます。

この心掛けが功を奏し、推進員の活動に理解を示してくれる方が増え、以前はあいさつさえすることのなかったアパートの若い住人と雑談したり、一緒に集団資源回収を行ったりしているそうです。

👍 ここがいいね!

聞きにくいことを聞ける、分からないことを分からないと言えるためには、お互いの距離が縮まらないとなかなかできません。「あいさつプラス一言」で、地域に風を吹かせましょう。

事例 17

車からのポイ捨て防止は、 集積所へのポスターで

【若林区】遠見塚北親会

集積所数:21カ所



平成17年から推進員として活動している菅原忠さんは、通りすがりの車からの集積所へのポイ捨てや粗大ごみの持ち込みに、頭を悩ませていました。問題の集積所は、迂回路となっている道路沿いで車の通行量が多い場所にあるため、曜日・時間に関係なく、ごみが捨てられやすいのです。

何か対策はないかと考えた末、菅原さんは、自動車からのポイ捨て防止ポスターを作り、ポイ捨てが多い4カ所の集積所に掲示することにしました。

「ポスターの対象を集積所の利用者ではなく、ポイ捨て

する部外者にするのは、ありそうでなかった視点です。町内会できちんと管理している集積所であることを示すこともできます」と菅原さん。人目に付くように色鮮やかな色彩で描いた、このポスターの効果が楽しみです。

👍 ここがいいね!

ポスターやちらしを作成するとき、「誰に対して」を考えることが大切です。対象をはっきりさせると、色、サイズ、言葉選びなどを工夫することができるし、効果も図りやすくなりますね。

事例 18

きれいな集積所は、 住民の理解と協力のおかげ

【太白区】平淵町内会

集積所数:16カ所



町内のまとまりの良さが自慢の平淵町内会。費用負担を伴う「集積所の改修」にも難なく快諾が得られたようで、推進員の皆さんは、近所の方の技術も借りながら町内のほとんどの集積所改修を成し遂げました。

同時に、利用者による集積所清掃の当番制も開始。この清掃当番には、事情により町内会に加入していない方にも参加してもらっています。推進員の佐藤明さんは「自分が使う集積所を自らお世話することがポイント。当事者意識も芽生え、大切にしようという気持ちになります」と教えてくれます。同じく推進員の澤田邦夫さんは「以前よりごみ出しマナーも良くなりました」と、手応えを感じてい

る様子です。

平淵町内会では、住人の理解と協力に支えられ、きれいな環境作りが進んでいます。

👍 ここがいいね!

町内会の協力があると、地域全体に働き掛けやすくなります。また、町内会に未入会の方のアクションを引き出したことで、地域活動の機運もアップ。地域での活動は、必要性和役割がはっきりすると「納得・参加」が得やすくなります。当事者意識を育むいい活動ですね。